

2022 年度
創発的研究支援事業 年次報告書

研究担当者	布山 美慕
研究機関名	立命館大学
所属部署名	文学部
役職名	准教授
研究課題名	量子確率を用いた不定な文章理解とその効果の認知研究
研究実施期間	2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

研究成果の概要

本年度は比喩を用いた認知実験の結果を分析し、比喩の解釈状態における量子的効果を論文にまとめ出版した。実験の結果、いくつかの比喩の解釈が字義的解釈と比喩的解釈の重ね合わせ状態とみなせることが示唆された。比喩には解釈多義性、親密性、新規性など複数の特徴があるため、これらを統制してどういった種類の比喩理解が量子的効果を持つかさらに議論を深められる可能性が示唆された。また、参加者ごと解釈がばらつく状態では分析が難しく適切な文脈の提示が必要であること、既存の分析手法のみでは比較的小さな量子的効果の測定が難しいという課題が示唆された。

また、2023 年 3 月に短編小説を用いた実験を行い、現在分析中である。本研究は未刊行であるため詳細は省略する。既存の量子認知研究では、状態の時系列変化としては数分程度の外部からの入力がない変化のみが実証的に扱われており、比較的長時間の文章理解時の状態変化を扱う研究は新規性が高い。

論文出版に加えて、本年度は本研究課題に関連して、学会における招待講演を 2 件、学内研究会での招待講演を 1 件行なった。また、非公式ではあるが、学内外の研究室との議論を複数行い、多くの分野の研究者と議論を重ねた。特に、量子認知研究を国内で推進している他グループとの議論や、本研究課題が注目する不確定な情動状態と関連しうる感情の研究者との議論は、今後の多角的な研究発展の基盤となりうる。